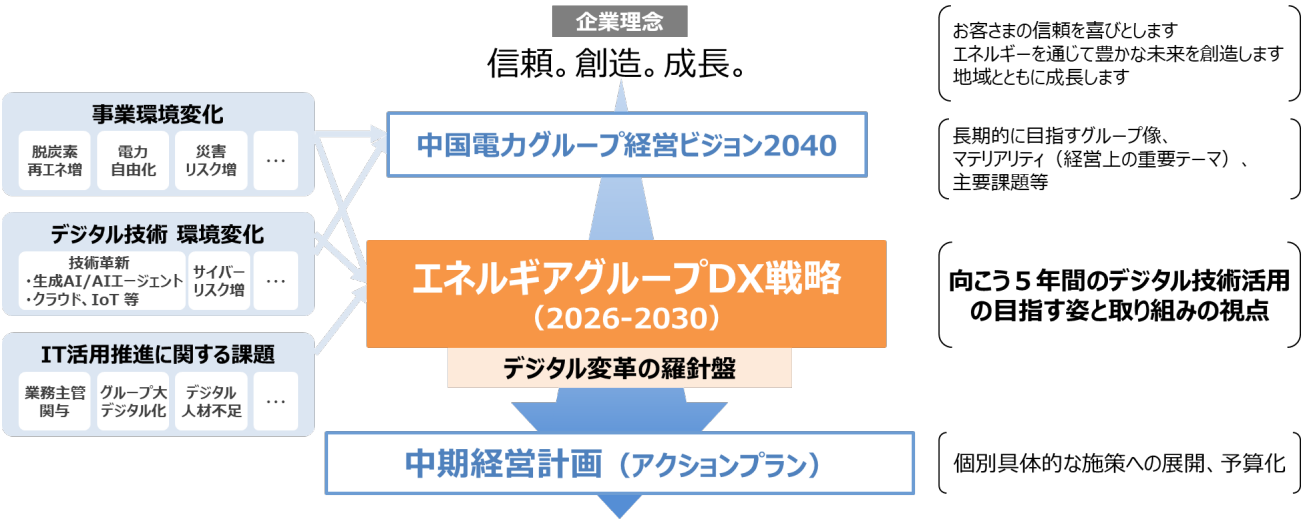


エネルギーグループ DX 戦略の概要

1. 目的・位置づけ

「中国電力グループ経営ビジョン 2040」の実現に向けて、デジタルを活用した業務変革（DX）にグループ一体で取り組むため、2026 年度から 2030 年度のデジタル技術活用に関するグループの目指す姿と取り組みの視点を示す“デジタル変革の羅針盤”となる DX 戦略を策定。



2. 全体像

「倍速エネルギー」を取り組み姿勢として、AI とデータの徹底的な活用により、業務変革に向けた圧倒的なスピードを獲得する。これにより、業務生産性向上を図るとともに、社会環境やデジタル技術の急速な変化をチャンスに変えて新たな価値創造の実現を目指す。



3. 取り組み領域と視点

DX 戦略で優先的に施策を展開する領域として、CX 向上、発電価値向上、グループ DX、業務プロセスの効率化・高度化、デジタルによる地域社会貢献、デジタル人材育成、デジタル活用基盤の7つを選定し、「業務のモダナイゼーション※」と「変化対応力向上」に取り組む。

また、各領域においてデジタル活用で目指すところを取り組みの視点として整理し、デジタル変革の施策を具体化、推進していく。

取り組み領域		取り組みの視点
業務のモダナイゼーション	①CX向上	<ul style="list-style-type: none"> 業務プロセス/営業ホストスリム化によるメニュー提供の迅速化 お客さま接点強化・デジタルマーケティングによる収益性向上 等
	②発電価値向上	<ul style="list-style-type: none"> AI・データ活用による運用計画最適化、需給管理・トレーディング高度化 スマート保安の推進・技術継承 等
	③グループDX	<ul style="list-style-type: none"> DX事例、セキュリティ対策等のグループ大でのDX知見共有 ITサービス共通利用拡大によるグループ各社のDX推進 等
	④業務プロセス効率化・高度化	<p><管理間接業務></p> <ul style="list-style-type: none"> AI・データ活用による生産性向上、意思決定精度の向上 グループの人材情報一元化による人的資本活用高度化 等 <p><オフィス業務></p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の自動化とデータを用いた生産性向上 AI・データ活用による社員パフォーマンス最大化 等
	⑤デジタルによる地域社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> グループ間連携の仕組みづくりによるシナジーの発揮 エネルギーグループのデータを起点とした地域課題発見・解決 等
変化対応力向上	⑥デジタル人材育成	<ul style="list-style-type: none"> デジタル人材育成環境の構築、デジタルマインド醸成 等
	⑦デジタル活用基盤	<ul style="list-style-type: none"> 最新技術を素早く、安全に利活用できるデジタル基盤の構築 等

※ 既存のシステムや業務プロセスを、デジタル技術の進化を含めた今日的な視点で最適化する取り組み

4. ロードマップ

2027 年度までと 2028 年度以降の 2 つのフェーズに分け、フェーズ 1 では、デジタル技術を活用した一部業務の抜本的見直しや、AI・データ活用の先行実施による業務生産性向上の成果を蓄積していく。フェーズ 2 ではフェーズ 1 の成果を基に対象業務を順次拡大し、全社的な生産性向上と新たな価値創造を目指す。

		【フェーズ1】 2026～2027年度	【フェーズ2】 2028～2030年度
全体		業務の再構築、利用データの量・質拡充と一部AI化の先行実施	AI・データ活用を拡大、全社での生産性向上と新価値創造を実現
業務のモダナイゼーション	小売	営業ホスト・小売プロセス全体のスリム化	
		応対高度化にむけたチャネル施策	デジタル接点拡大・営業高度化
	発電・卸販売	火力・水力発電計画最適化	AI・データの本格運用、高度化
	グループDX	グループ間情報共有 共同利用サービス準備	グループ大でのDX施策展開スピード向上
	管理間接	業務プロセスの断捨離・再設計	AI・データ活用による業務高度化・自動化
	オフィス	AIエージェント試行・導入	AI・データ活用による社員パフォーマンス最大化
	地域	グループ横断データ基盤試行	データ活用によるグループ提案力向上
変化対応力向上	デジタル人材	デジタル人材の育成、育成環境の拡充	実践スキル向上、デジタルマインド醸成
	デジタル活用基盤	AI・データ基盤の拡充およびガバナンス体制の整備	基盤の高度化、グループ企業との連携

凡例： 業務生産性向上・技術検証・準備フェーズ

新価値創造フェーズ

以 上